日刊建設工業新聞　2014年6月13日　6面

がれき処理コンソーシアム

3部会体制に再編

未利用資源活用などへ軸足

震災がれきと産業副産物のアロケーション最適化コンソーシアム（がれき処理コンソーシアム、久田真会長）は、14～15年度の活動体制を決めた。これまでの5部会体制を再編し、▽がれき利活用検討部会▽未利用資源有効利用検討部会▽拠点形成検討部会―を新たに設置する。

岩手県と宮城県で東日本大震災のがれき処理が完了したことを踏まえ、がれきの有効活用における長期安定性についての評価や、未利用資源の有効活用のための資源循環の枠組み構築へと軸足を移す。

がれき利活用検討部会は、コンクリートがれきやその残さ、焼却灰、土砂の利活用推進や、福島県でのがれき処理推進の技術支援などを担当する。幹事は鹿島と昭和コンクリート工業が務める。

未利用資源有効利用検討部会では、地場企業が産出する未利用資源の利活用や、JISなどの基準を満足しない材料を有効活用する技術開発などを手掛ける。幹事は日本製紙と三菱マテリアル。

拠点形成検討部会では、宮城大と東北大が幹事となり、がれき由来の資源の長期性能評価を支援する技術拠点形成を検討する。資源循環に関する技術拠点の形成についても検討する。

がれき処理コンソーシアムは、6日に仙台市内でシンポジウムと第3回総会を開き、これまでの活動報告や関係機関からの情報提供を行った＝写真。